



樹氷：(恐羅漢・広島県)

新年のご挨拶： 近畿中国森林管理局長

ニュース：森林整備課、箕面森林ふれあい推進センター、島根森林管理署、和歌山森林管理署、山口森林管理事務所、岡山森林管理署、鳥取森林管理署、広島北部森林管理署、森林技術・支援センター

花草木：ツワブキ

我が署のスタッフ：京都大阪森林管理事務所

森林事務所等紹介：一宮森林事務所(兵庫森林管理署)

国有林最前線：総務課



新年のご挨拶 近畿中国森林管理局長 國井 聡

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては新年を迎え、ますます御清祥のことと心よりお慶び申し上げます。



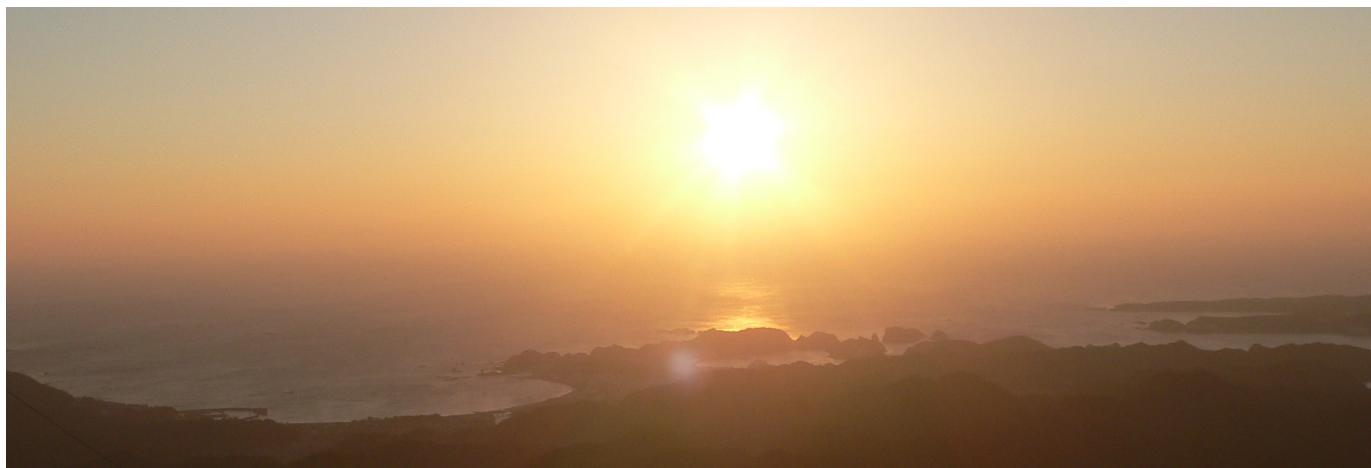
昨年は、台風第7号災害を始め、自然災害により管内各地で被害が発生いたしました。被災されたすべての皆様に対しまして心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。国有林といたしましても、復旧・復興に全力で取り組み、治山事業や適切な森林整備事業により地域の安全・安心を確保して参る所存です。

現在、戦後に造成された人工林の多くが主伐期を迎える中、豊富な森林資源の利用を促進するとともに、伐採後の確実な再造林により、資源を循環させていかなければなりません。しかしながら、全国的に国産材の供給量が着実に増加する一方で、林業採算性の低迷等から主伐後の再造林が十分に行われていない現状にあり、ICT等も活用した森林施業の効率化、低コスト化が大きな課題となっています。

また、昨年5月に花粉症に関する関係閣僚会議において示された「花粉症対策の全体像」の中では、花粉発生源対策として、スギ人工林の削減や花粉の少ないスギへの植替え等が方針として示され、国民の注目を集めました。本年4月から森林環境税の課税が開始されることもあり、適切な森林整備の推進について、国民の方々のより一層のご理解を賜ることが重要です。

このような中、本年5月には岡山県において全国植樹祭が予定されており、持続的な森づくりへの国民ひとりひとりの意識の醸成が期待されます。

近畿中国森林管理局といたしましても、公益重視の管理経営を一層推進するとともに、林業の低コスト化に向けた技術開発の取組を通じて民有林関係者への普及を図る等、民有林の森林・林業施策の推進への貢献に努めて参りますので、改めて国有林の事業運営に対する一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。



妙法山（和歌山県）からの日の出

分収造林契約締結式を行いました。

【森林整備課】

近畿中国森林管理局では、令和5年12月5日（火）、局会議室において、広島建設株式会社との分収造林契約締結式を行いました。対象地は広島県神石郡神石高原町しんもとしげやまの新元重山国有林748い、ろ林小班（広島北部署管内）の4.5720haです。



契約締結後の記念撮影

局長から「地球温暖化防止に向けたCO2吸収への貢献など、社会地域貢献のフィールドとして活用していただくため分収造林契約を締結しました。関係者の皆様が団結して、森林づくりを応援していただけることを心強く感じております。我々も企業における環境保全などの社会貢献を支援してまいります」と挨拶がありました。

広島建設株式会社は、木造住宅をはじめ、非住宅木造建築も手掛けておられる木材の需要者であり、森林を育てることを経験することで、地球温暖化防止対策や地域の森林整備に貢献し、森林・林業の普及啓発に寄与することができれば分収造林の契約を希望されたとのことであり、島田社長は「今後、分収造林地を使ったイベントなどを計画していきたい」と話されていました。

今後とも近畿中国森林管理局では、国が伐採した跡地などの中から、森林の環境保全や地域貢献をしたいという皆様の要望に応えるため、分収造林契約の締結を推進してまいります。

草木染めのイベントを開催しました。

【箕面森林ふれあい推進センター】

令和5年12月3日（日）、近畿中国森林管理局においてイベント「サクライロをつくろう～草木染め体験～」を開催しました。



講師による染め方の説明



参加者による模様付け

このイベントは、みのお箕面国有林にて植栽したエドヒガンの良好な生育を促すため、除伐等の手入れを行った際に出た枝などの有効活用を目的として開催しています。

当日は、風が冷たい一日ではありましたが、兵庫県から講師をお招きし、イベントには子どもから大人まで12名が参加しました。参加者はビー玉やひもを使って布に模様をつけた後、講師のアドバイスを聞きながら桜の枝から煮だした染料液で染める作業を行いました。作品を作り終えた参加者からは「きれいな色に染まって嬉しい」などの感想が聞かれ、楽しい時間を過ごしていただくことが出来ました。



染めてすぐの布



完成した作品

「林業省力化技術実証事業現地研修会」を島根県と共同で開催しました。

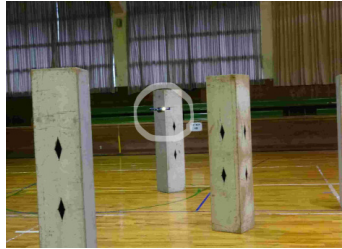
【島根森林管理署】

島根森林管理署では、島根県と共同により令和5年11月10日（金）、島根県津和野町において、津和野町、吉賀町、林業関係団体職員など16名が参加した林業省力化に向けた現地研修会を開催しました。

この研修会は、森林経営の収益力強化につながる木材生産及び再生林の低コスト化を推進するため、高津川流域林業活性化センターが行うICT機器を活用した作業効率化技術の実証事業を技術支援するため、国有林野をフィールドとして、開催したものです。



AI搭載型ドローンの説明と実演



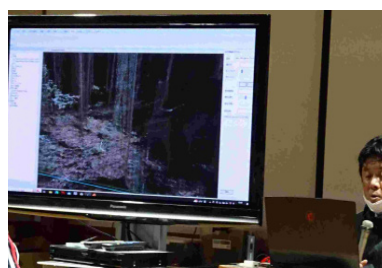
障害物を避けながら飛行するドローン（白丸内）

当日は雨天のため、予定していたAI搭載型ドローンの現地での林内飛行ができず、会場を地元の体育館に変更して、国内販売を手掛ける株式会社竹谷商事、ジオサーフ株式会社によりドローンの説明と実演が行われました。今回紹介された「AI搭載型ドローン」は6個の魚眼カメラとAIを使って、林内で枝条などの障害物を避けながら飛行することが可能で、非GPS環境や狭小な場所でも、ぶつからずに対象物に近い距離で飛行ができるということです。

当日は雨天のため、予定していたAI搭載型ドローンの現地での林内飛行ができず、会場を地元の体育館に変更して、国内販売を手掛ける株式会社竹谷商事、ジオサーフ株式会社によりドローンの説明と実演が行われました。今回紹介された「AI搭載型ドローン」は6個の魚眼カメラとAIを使って、林内で枝条



GNSS測位機の説明



前日に取得したAI搭載型ドローンによる森林調査データの解析結果について説明

その後、地元公民館において、前日に現地で取得したデータの解析結果の説明などがありました。専用の解析ソフトを使用することで、撮影したプロットの3次元データの確認やプロット*内の蓄積（立木本数、胸高直径等）の測定が可能とのことでした。

また、島根森林管理署からは、地上型3次元レーザスキャナの説明と、事前に調査していた現地の森林情報の毎木調査と各機器との調査結果比較を説明しました。

質疑応答では、プロット測定に要する時間や傾斜地での操作、計測誤差などについて多くの質問があり、関心の高さが伺えました。今回紹介された「AI搭載型ドローン」は現在、橋梁点検など構造物に対する利用が主とのことで、林業現場でも活用が待たれます。

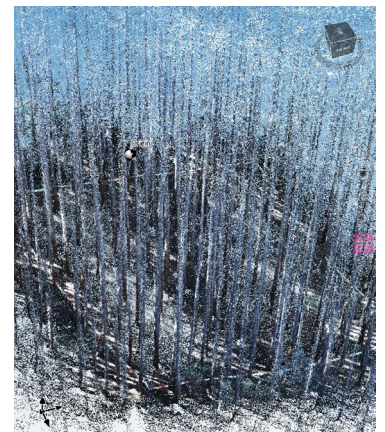
林内を自動飛行して森林の状況を把握することができれば、業務の効率化や労働災害の軽減につながることから今後の普及に期待するところです。

島根森林管理署では収穫調査の省力化・効率化に向けたICT機器の活用を推進する取り組みを今後も行ってまいります。

※プロット：調査した地点・区域



地上型3次元レーザスキャナの説明



立体図（やや上空から）

「高野山古事の森」見学会を実施しました。

【和歌山森林管理署】

和歌山森林管理署では、令和5年11月11日(土)に「高野山古事の森」見学会を開催しました。

「高野山古事の森」は、歴史的、伝統的に価値のある木造建築物の修復や復旧に必要となる大きくて太い木材供給を目指し、平成16年に設定したものです。

見学会では、「れいほうかん霊宝館の見学」及び「高野山古事の森の生育状況の確認」を実施し、参加者の皆様に文化財と



霊宝館前で集合写真

森林の関わりについて理解を深めていただきました。

霊宝館は、高野山内の貴重な文化遺産を保存展示する施設として、1921年(大正10年)に開設され、年間を通して、企画展や特別陳列、常設展示を企画し、展示公開しています。

参加者の皆様は、館長による展示物の説明を受けながら館内を巡り、普段の見学では、知ることができない知識、例えば「ぼさつ菩薩」は悟りを開き「にょらい如来」になるための修行の身であること。いちぼくづくり一木造りは、前側が割れてしまわないように、後ろ側に割れ目(=せ背割り)を入れていることなど、館長から、たくさん説明を受け、大変有意義な見学会になりました。その後、現地の森林でドローンを飛行させ、映像により参加者の皆様と一緒に生育状況を確認しました。



ドローン撮影映像による生育状況の確認

山口県 OF 会がボランティア活動を実施しました。

【山口森林管理事務所】

令和5年11月20日(月)滑山なめらやま国有林(山口市徳地とくぢ)において、山口県オールドフォレスターの会(OF会※)による今年度第3回目のボランティア活動が実施されました。

当初の計画では、林道整備を行う予定としていましたが、7月～8月に滑林道ひくれ日暮支線みつなりと密成支線に相次いで不法投棄が確認されたことから、山口市徳地総合支所に協力をいただき、当所職員、OF会による国有林内の不法投棄クリーン作戦を実施しました。

クリーン作戦には、OF会員5名、総合支所職員2名と当所から若手職員含む職員11名の計18名が参加し、伊藤OF会会長及び長岡所長の挨拶の後、不法投棄の処理について、山口市からアドバイスをいただき、作業に着手しました。

今回処理する不法投棄物の中には、大型コンクリートブロックの塊もありましたが、OF会会員等の協力のもとハンマーで砕きながら処理を行い、効率的に作業を進め、予定した箇所すべての分別処理作業を終えることが出来ました。

不法投棄は、原因者に処理させることができない場合、土地所有者等は多大な負担を強いられる事となります。

山口森林管理事務所では、今回の件を踏まえ、さらに国有林の適切な管理に取り組んでまいります。

※OF会とは森林管理署等の退職者で構成された団体で、国有林をフィールドとしたボランティア活動を通じて国民参加の森づくり活動に貢献しています。



「ドコモ美作の森」で実施された育林活動に参加しました。

【岡山森林管理署】

令和5年11月11日（土）、岡山県久米郡美咲町の
なかも中山国有林において実施された「ドコモ美作の森」育林活動に職員が参加しました。

「ドコモの森」における森林整備活動は、自然環境保護活動の一環として、NTTドコモグループで全国的に実施している取組です。「ドコモ美作の森」は、その取組の一つで、国との分収育林契約に基づき、2004年から育林活動が開始され、今回で18回目の実施となります。

当日は、前日からの雨も上がり、晴天に恵まれた中、株式会社ドコモCS中国等の社員ら16名の参加があり、講師として、グリーンOB会から2名、岡山森林管理署から2名が参加しました。



開会式の様子

開会式の後、グリーンOB会から作業内容の説明や安全指導が行われました。今回の作業箇所は、平成23年度にマツや広葉樹を植栽した区域で、植栽木の日照を妨げているススキ等を刈り払う「下草刈」を2班に分かれて実施しました。

参加者は、植栽木に巻かれたピンク色のテープを目印に、植栽木を傷つけないよう慎重に作業していました。

作業の後は、遊歩道を散策しながら、グリーンOB会による自然観察会が行われ、ユーモアを交えた楽しい説明に、参加者は晩秋の森林を満喫いただいた様子でした。

岡山森林管理署では、今後も企業や一般の方々に森林や林業とふれあう場として、国有林のフィールドを提供してまいります。

にちなん中国山地林業アカデミーの現地実習に協力しました。

【鳥取森林管理署】

令和5年11月15日（水）、にちなん中国山地林業アカデミーの学生10名と引率者1名を対象に民有林の造林現場において現地実習を実施しました。

この実習は、同アカデミー設立時に設置されたサポートチームの一員として当署が参画する計画となっており、その協力の一環として、令和元年度から実施しているものです。

当日は、午前中に同アカデミーの講義室で、当署職員による林業の低コスト化の取組、国有林における木材販売事業及び安全作業の取組の説明に加え、ICTを利用した林業の紹介として、OWL（3D地上レーザスキャナ）の活用方法や機能について説明し、実際に解析ソフトの使用体験を行っていただきました。

午後からは、皆伐現場に赴き、カラマツコンテナ苗の植樹実習を実施しました。参加した学生達からは、「国有林の木材の異なる販売方法について、買受者にはどのような違いがあるのか」「ポット付きコンテナ苗を聞いたことがあるがポットなしのものとのような生長の違いがあるのか」「コンテナ苗は乾燥に強いのか」など熱心な質問等が多数あり、参加した学生達の資質・技能の



コンテナ苗の植え付け方法について説明

向上の一助になったのではないかと思います。

鳥取森林管理署では、今後も同アカデミーの活動に協力して、森林・林業の成長産業化を図り、「グリーン成長」の実現を担う人材の育成に向けた取組を引続き行ってまいります。

分収造林地で「森開き式」を開催しました。

【広島北部森林管理署】

令和5年11月15日（水）、本年3月に広島ガス株式会社と近畿中国森林管理局の間で分収造林契約した石屋山^{いしやま}国有林（広島県神石高原町）において、「このまち思い 広島ガス神石高原の森（石屋山）」と題して、広島ガス株式会社、神石高原町及び神石高原中学校一年生ほか関係者40名が参加して「森開き式」が開催されました。

森開き式では、松藤広島ガス代表取締役社長、國井近畿中国森林管理局長及び森重神石高原副町長の挨拶、記念看板の除幕式のあと、参加者全員でヒノキコンテナ苗約500本を記念植樹しました。



植樹する様子

コンテナ苗を初めて植える方が多い中、神石高原中学校一年生16名が率先して植樹を行い、有意義な一日となりました。

広島北部森林管理署では、今後も公益事業者等の企業における地域社会貢献活動となるフィールドの提供や環境保全活動などを支援してまいります。



関係者による記念撮影

鳥取市林業振興協議会の視察研修を受け入れました。

【森林技術・支援センター】

令和5年11月27日（月）、鳥取市林業振興協議会23名の皆様に「森林・林業技術視察プログラム」による視察研修を実施しました。

今回は、里山広葉樹林活用・再生プロジェクト^{*}及び伐採・植付一貫作業として植え付けを行ったコンテナ苗等の活着・育成実証の試験地をそれぞれご案内しました。

参加した皆様からは、広葉樹の伐採・搬出等の採算性や

コンテナ苗に関して、いろいろなお質問や活発なお意見をいただくなど、大変有意義な視察研修となりました。

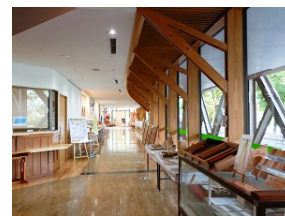


視察研修の様子

^{*}高林齢となった里山林を森林資源として有効に活用するために伐採し更新することによって、森林を若返らせる取組。

お知らせ

森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

○1月12日（金）～2月2日（金）の展示は、三重県、森林総合研究所 関西支所です。

ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【企画調整課】

○令和5年度の「国有林モニター」を募集いたします。応募方法等は下記の局ホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/press/kiaku/231212.html>



花草木

【ツワブキ】

ツワブキ（石菖・艶菖・橐吾、学名：Farfugium japonicum）は、キク科ツワブキ属に属する常緑多年草です。海岸近くの岩場などや林の縁に生えているのが見られ、初冬に黄色い花を咲かせます。

花は株の中心から伸びて出て、先端に10～30輪ほどのキクに似た、花径3cm前後の黄色い花を咲かせます。

ツワブキの花は、園芸品種として斑入りや八重咲き、丁字咲き（花芯が発達してアネモネ咲きになる品種）などがあり、観賞用に庭園等に植えられることもあります。

また、昔から民間薬や食用野草として知られ、若い葉柄が食べられます。

日本では、「石菖の花（つわのはな）」や「いしぶき」は初冬の季語とされています。島根県の津和野（つわの）の地名は「石菖の野（ツワの多く生えるところ）」が由来となっているらしいです。

ツワブキの花言葉は「困難に負けない」「謙遜」



大阪市内の公園で撮影

我が署のスタッフ 京都大阪森林管理事務所

谷口 芙美子（たにくち ふみこ）（H28年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

野生鳥獣対策官として、植栽木に被害を及ぼすシカの捕獲や、国有林内での狩猟を目的とした方々への対応等の有害鳥獣対策に関わる仕事のほか、国有林内でのボランティア活動に関する仕事の一部を担当しています。

【職場の雰囲気は？】

若手の職員も多く、和気あいあいとした雰囲気があります。観光地や住宅地等に近い国有林が多いため、所全体として外部の方からのご質問やご意見が多く寄せられ、難しい面もありますが、ベテランの職員の方々が適切に対応されて、勉強になります。

【林野庁の魅力は？】

穏やかな人が多いところも魅力ですが、何よりフィールドがあるところが一番の魅力だと思います。

管理する土地で、必要な事業を検討・発注し、事業者とコミュニケーションを取りながら進捗や成果を確認することで、現場で起きる多くのことを学べると思います。



地元猟友会と有害鳥獣捕獲に使用する通信機器を点検する様子

森林事務所紹介

一宮森林事務所（兵庫森林管理署）

森林官 松柏 弘一（まつかし ひろかず）

一宮森林事務所は、兵庫県の中西部に位置する宍粟市一宮町に所在する国有林と官行造林地を合わせて、約 2,753ha を管理しており、兵庫森林管理署の管理面積の約 9% を占めています。国有林の特徴は、人工林率約 78% で、利用期に達した林分も多くありますが、獣害被害が多く、再造林が難しいことから、間伐を主体とした事業を展開しています。



収穫調査中の筆者（阿舎利^{あじやり}国有林）



間伐予定地を踏査する筆者
ろくろしやま
 轆轤師山国有林（間伐）



森林大学校インターンシップ学生を指導する筆者
 轆轤師山国有林（収穫調査）

読めない、書けないと言われる「宍粟（しそう）」ですが、地名の由来は奈良時代にまで遡り、宍禾の郡（しさわのこおり）として建郡されたことが起源です。宍は肉、禾は穀物を指し、狩猟と農耕の地を意味します。

また、宍粟市は、明治から昭和中期にかけ「宍粟スギ」を中心とした林業で栄えた地域でした。

近年は、過疎化が進み、地域の活力が薄れてきていますが、「しそう森林王国」の理念である豊かな自然資源を守り、その自然の中で人々が楽しくふれあい、心身ともにやすらげる緑のふるさとづくりを掲げ、家族で楽しめるアウトドア施設の整備のほか、宍粟牛^{じれんしよ}、自然薯、地酒、

手延べそうめんなど名産品をゆっくりと堪能できる場の提供に力をいれています。

なお、一宮町内には、多くの湧き水があり、水質が良いことから、平成 11 年に「一宮名水」に選定。中には、寿命が延びる霊水として「延命水」と名付けられたものもあり、一度ゆっくりと探索されてはいかがでしょうか。



「延命水」宍粟市一宮町伊和

シリーズ 『国有林 最前線！』

『近畿中国森林管理局の研修について』

総務課

近畿中国森林管理局が実施する研修について御紹介します。

今年度、近畿中国森林管理局では、局主催研修を年間 26 コース計画・実行しており、林野庁の森林技術総合研修所で実施する年間 67 コースの研修と連携して人材育成に取り組んでいます。これらの研修には、管内各署等から多数の職員が参加し、森林管理技術の習得や職務遂行能力の向上に日々努めています。

また、その他に農林水産省研修所が実施する職位別研修、人事院やデジタル庁、国交省が募集する研修など、職員を対象とする研修は年間 100 コース以上にのぼり、総務課においては、職員の積極的な研修受講の支援に取り組んでいます。

さらにコロナ禍以降は、WEB 形式での研修等が増え、受講の機会が容易で身近なものとなってきています。

さて、近畿中国森林管理局では、昨年度から局主催の一部の研修に、管内市町村の林務担当職員を研修生として受け入れています。

市町村職員の多くは、少人数で幅広い業務を担当し、「森林・林業」に関する専門研修を受講する機会が少ないことから、当局では林務担当職員の技術習得支援を目的に、国有林の職員研修に受講希望者を受け入れることとし、これまでに森林施業研修やドローン操作技術研修等へ 16 名の市町村職員を受け入れてきました。

市町村の研修生からは「研修内容を今後の業務に活かしていきたい、他の職員にも伝えたい」との感想が寄せられ、国有林側の研修生にとっても、市町村職員とともに学ぶ研修は意見交換の場となり、外部からの新鮮な刺激や影響を受ける良い機会となっています。

今後も、地方自治体等からの研修生受け入れの機会を増やし、研修が互いの知識や技術の研鑽の場となり、新たな交流が生まれる場となることを願っています。



接遇研修を受講



グループ討議発表



「森林の見方」を受講する新規採用職員



「ドローン操作研修」受講中の市町村職員

